

「GIGAスクールに関わる最近の動向」



村松 浩幸
信州大学教育学部・学部長



紹介

- 専門分野：技術教育学 博士（学校教育）
- 主な研究テーマ
技術教育における知財学習，ロボット学習，教材開発etc
※第5回TEPIA知的財産学術奨励賞・日本知財学会特別賞(2012)
文部科学大臣表彰科学技術賞(2015)
- 長野県ICT教育センター長（R4）
- NHK高専ロボコン審査委員長，
日本産業技術教育学会会長等

信州大学教育学部 村松浩幸研究室

研究室紹介 研究情報 社会貢献 教育 研究室アクセス 問い合わせ

オモシロイを形に

ものづくりは人づくり

READ MORE

<https://mura-lab.info>

ICT

Intellectual
Property

Technology

FabLab



本日のお話

- 教育DXについて
- 学習者用デジタル教科書について
- デジタルシティズンシップについて

1人1台端末活用に関する方針等について（初等中等教育局長通知 令和4年3月3日）

- 令和3年3月12日発出「GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について」を、有識者会議（※）における議論を踏まえ、端末の運用・学習指導に関すること等を充実させるとともに、内容を整理。（※GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議）
- 学校設置者や学校等において、1人1台端末を活用した学習活動を一層推進するためのガイドラインとして使用されることを想定。

「学校ICT環境の活用に関する方針」

1人1台端末等のICT環境の活用を進める上でおさえておくべき基本的な方針・考え方を記載。

- ✓ 「前提となるICT環境の整備」、「クラウドの取扱い」、「健康面の配慮」、「持ち帰った端末等のICTを活用した自宅等での学習」、「組織体制の整備」などの運用に関すること
- ✓ 情報モラルの考え方を含む「安全・安心な活用の促進」、「研修の実施」、「特別な配慮が必要な児童生徒に対するICT活用」などの学習指導に関すること 等

「学校におけるICT環境の活用チェックリスト」、「年度更新タスクリスト」

学校設置者・学校・関係事業者等が、端末の年度更新も含め、1人1台端末等の円滑な運用に向けた準備状況・取組状況を自己診断し、改善できるよう、必要な項目をリストアップ。

- ✓ 「クラウドサービスを利用する計画になっているか」、
「児童生徒の健康面に配慮した活用方針を定め、教職員・保護者・児童生徒にわかりやすく示しているか」、
「活用目的や家庭と共通理解を図るための保護者向け資料を作成し、提供しているか」 等

「学校設置者・学校・保護者と共通理解を図ることが望ましいポイント」

1人1台端末の円滑な運用には、学校設置者・学校・保護者との間で、活用ルールだけではなく、ICT環境の活用目的や意義について、共通理解を図ることが必要不可欠であり、必要な事項を記載。

- ✓ 「児童生徒が端末を扱う際のルール」、「健康面への配慮」、「端末・インターネットの特性と個人情報の扱い方」、「トラブルが起きた場合の連絡や問合せ方法等の情報共有の仕組み」 等

学習者用デジタル教科書を学習者用コンピュータで使用するにより可能となる学習方法の例

- は特に、特別な配慮を必要とする児童生徒等にとって、学習上役立つ機能。

1 | 拡大



教科書を拡大して表示することができます。

2 | 書き込み



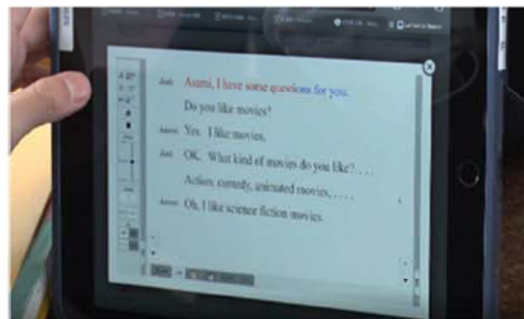
教科書にペンやマーカーで簡単に書き込むことができます。

3 | 保存



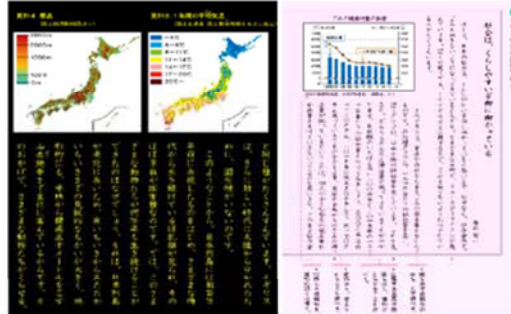
教科書に書き込んだ内容を保存・表示することができます。

4 | 機械音声読み上げ



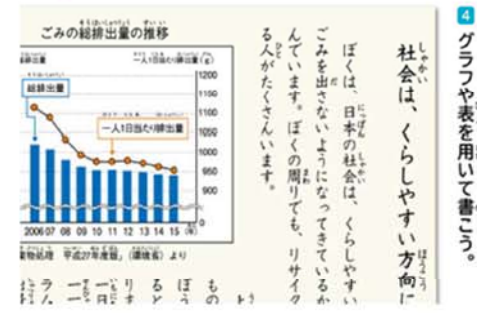
教科書の文章を機械音声で読み上げることができます。

5 | 背景・文字色の変更・反転



教科書の背景色・文字色を変更・反転することができます。

6 | ルビ



教科書の漢字にルビを振ることができます。

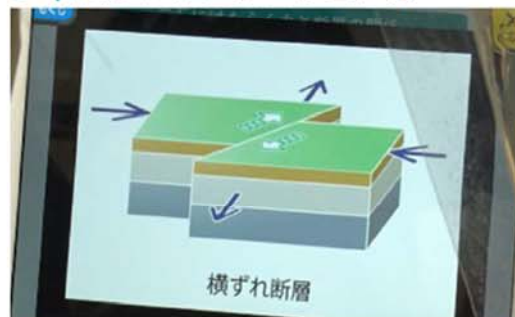
学習者用デジタル教科書と他のデジタル教材を組み合わせることで、可能となる学習方法の例。

7 | 朗読



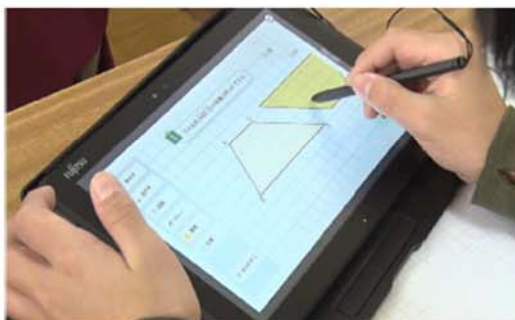
音読・朗読の音声やネイティブ・スピーカー等が話す音声を教科書の文章に同期させつつ使用することができます。

8 | 動画・アニメーション等



教科書に関連付けて動画・アニメーション等を使用することができます。

9 | ドリル・ワークシート等



教科書に関連付けてドリル・ワークシート等を使用することができます。

学習者用デジタル教科書と他のICT機器等を一体的に使用することで、可能となる学習方法の例。

大型提示装置による表示



児童生徒の手元の画面を大きく表示することができます。

ネットワーク環境による共有



授業支援システム等を活用し、児童生徒の手元の画面を共有することができます。

教育DXについて

第1段階 デジタイゼーション 電子化

標準モデルアプローチ
経験・勘による「属人知」



デジタル化で効率・効果的に
(GIGAスクールによる1人1台端末整備等)

第2段階 デジタライゼーション 最適化



ICT・データ活用による指導・教育
行政の改善・最適化
(1人1台端末の効果的な活用によるデータのフル活用)

第3段階 デジタルトランスフォーメーション 新たな価値

「個別最適モデル」アプローチ
「集合知」の活用



学習モデルの構造等が質的
に変革し、新たな価値を創
出

GIGAスクール構想による端末整備等

デジタル教科書普及促進

大学等のデジタル化推進

教育データの標準化（ルール）

文科省CBTシステム（MEXCBT）開発・運用等
（ツール）

教育データ研究・分析等と現場への還元・新たな知見の活用
(国研データサイエンスセンターと連携)

教育DXで変わること（イメージ案）

これまで

「部分的・静的」な把握
経験・勘による「属人知」
「標準モデル」アプローチ
「後手後手」対応



これから

「全体的・動的」な把握
「集合知」の活用
「個別最適」アプローチ
「未然防止」

取組リンクリスト①

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。黄色の枠は令和3年度取組として追加した内容です。

学習指導

① 教材研究や作成

教材の共有
p. 29 21.5時間

② 通案・指導案の作成

通案や学校日誌
のデジタル化
p. 29 14.3時間

通案・指導案の
簡素化 p. 30 14.3時間

③ 宿題やノート点検

自主的な
家庭学習への
転換 p. 33 66.7時間

家庭学習の
やり方の
見直し p. 34 66.7時間

家庭学習の
オンライン
提出 p. 34 33.3時間

④ 授業で使用するプリント印刷

紙ではなくデ
ータで児童生徒へ
配布 p. 35 43.0時間

⑤ 教室・校内掲示

PC から
直接印刷 p. 35 43.0時間

⑥ 学級日誌

掲示の精選
p. 36 21.5時間

⑦ 学級日誌

学級日誌の
見直し p. 38 16.7時間

学習評価

① テスト作成・採点

採点業務の外部
サポート・分担
p. 39 108時間

採点システムの
導入 p. 39 25.0時間

小テストの
採点の自動化
p. 40 21.5時間

定期考査の
見直し p. 42 20.0時間

名簿への
転記見直し p. 43 10.8時間

小テスト中に
採点 p. 43 10.8時間

採点期間の確保
p. 43

② 通知表の作成・点検

所見の見直し
p. 44 30.0時間

前期や1、2学期
の所見の見直し
p. 45 20.0時間

二期制の採用
p. 46 15.0時間

押印欄の廃止
p. 47 1.5時間

家庭からの
回収無し p. 47 0.5時間

生徒指導

① 給食指導

担任以外による
給食指導 p. 48 25.0時間

自動手指
消毒器の導入
p. 49 16.7時間

② 登下校指導・校則チェック

制服の見直し p. 49

③ 個別の学習指導・生徒指導

生徒の様子を
日常的に共有 p. 50

進路指導・進路状況の調査

① 進路希望調査・進路先データの収集

データ収集の
Web アンケート化 p. 51 3.0時間

② 大学とのやりとり

メールの活用
p. 52 10.8時間

③ 進学の事前指導・事後指導

個別進路相談会
の外部委託 p. 53 3.0時間

オンライン
会議での実施
p. 53 1.0時間

[目次へ戻る](#)

取組リンクリスト②

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。黄色の枠は令和3年度取組として追加した内容です。

特別活動

① クラブ・委員会活動

クラブ・委員会
の再編成 p. 54 10.8時間

生徒とのやりとり
のオンライン化
p. 54 10.8時間

クラブ決定方法
の変更 p. 54 1.0時間

マラソン大会の
見直し p. 55 4.0時間

② 運動会・体育祭

練習は無しor
授業に収める
p. 57 16.0時間

準備時間と
当日の開催時間
を短縮する p. 57 20.0時間

午前実施に短縮
p. 58 8.0時間

学年ごと30分
に短縮 p. 58 8.0時間

③ 学年行事・授業

参観への転換
p. 60 8.0時間

④ 競技種目の精選

p. 60 8.0時間

⑤ 表現・演技種目の精選

p. 61 8.0時間

⑥ 保護者種目の精選

p. 61 5.0時間

⑦ 学芸会・学習発表会

学習発表会の
精選 p. 62 23.0時間

日々の授業の
成果を発信する
場に転換 p. 62 8.0時間

⑧ 集会

オンライン会議
での実施 p. 63 5.5時間

放送・動画配信
での実施 p. 63 5.5時間

⑨ 式典

写真選定の
自動化 p. 64 10.0時間

式典の同日実施
p. 65 6.0時間

文集の見直し
p. 65 5.0時間

部活動

① 部活動

部活動の精選
p. 66 129時間

休日の活動を
はじめとした
地域への移行 p. 66 129時間

活動内容の精選
p. 66 86.0時間

休養日の設定
p. 67 86.0時間

活動時間の短縮
p. 67 50.0時間

合同練習の実施
p. 67 43.0時間

顧問の複数・
シフト制 p. 68 43.0時間

朝練の見直し
p. 68 21.5時間

ガイドラインの徹底 p. 68

校外での活動

① 校外学習

学年単位での
実施 p. 70 15.0時間

しおりの見直し
p. 70 5.0時間

② 作品展

実施・参加する
作品展などの
精選 p. 73 10.0時間

③ 地域行事

土日に教職員が
参加する地域行
事の見直し p. 74 10.0時間

[目次へ戻る](#)

取組リンクリスト③

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。黄色の枠は令和3年度の実践事例として追加した内容です。

出欠・保健情報管理

① 欠席連絡・健康観察

欠席連絡・検温
報告の Web
アンケート化 p.75

削減
時間
33.3時間

身体測定
回数見直し p.75

削減
時間
2.0時間

保護者対応

① 連絡帳での保護者とのやりとり

問い合わせを
メール・Webア
ンケートで受け
付 p.76

削減
時間
43.0時間

② 保護者向けの連絡

雛形の簡素化
p.77

削減
時間
21.5時間

学級通信などの
オンライン配布
p.77

削減
時間
21.5時間

メール連絡へ
統一 p.78

削減
時間
43.0時間

重複していた記載
事項の一本化・
通信の統合 p.78

削減
時間
43.0時間

発行回数の
見直し p.78

削減
時間
21.5時間

③ 個人面談・家庭訪問

家庭訪問を
個人面談へ転換
p.79

削減
時間
25.0時間

家庭訪問の
下見の取りやめ
p.80

削減
時間
2.0時間

勤務時間・
学期内の
個人面談実施 p.81

削減
時間
1.0時間

家庭訪問の
オンライン化 p.80

削減
時間
7.5時間

面談調整の
オンライン化 p.81

削減
時間
1.0時間

④ 保護者向け集会、PTA の活動

PTA 活動の
見直し p.82

削減
時間
53.8時間

委任状・承認の
Webアンケート・
書面化 p.83

削減
時間
3.0時間

オンライン
会議・動画配信
での実施 p.82

削減
時間
3.0時間

学校行事等の
保護者への公開
p.83

削減
時間
0.5時間

教務

① 予定・日誌の管理

行事予定・
学校日誌の
デジタル化 p.84

削減
時間
50.0時間

② 体験入学

体験入学の
見直し p.85

削減
時間
10.0時間

調査

① アンケート・行政からの調査

Webアンケート化
p.86

削減
時間
3.0時間

校務支援
システムによる
調査見直し p.87

削減
時間
2.7時間

施設管理

① 清掃

清掃の見直し
p.88

削減
時間
5.0時間

② 施設・備品の点検

学年ごとの施設
点検 p.89

削減
時間
50.0時間

備品管理の
バーコード化 p.89

削減
時間
1.0時間

長期休業中の
日直の見直し
p.90

削減
時間
5.0時間

校務分掌

① 校務分掌全般

共有カレンダー
でのタスク共有
p.91

削減
時間
10.8時間

資料の雛形作成
p.91

削減
時間
10.8時間

委員会の統合
p.91

削減
時間
10.0時間

マニュアル・
引き継ぎ資料の
作成 p.92

削減
時間
5.0時間

企画の前倒し
p.93

削減
時間
3.0時間

取組リンクリスト④

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。黄色の枠は令和3年度の実践事例として追加した内容です。

教職員間のやりとり・会議

① 教職員間の日々の連絡

職員朝礼・
終礼の精選 p.94

削減
時間
33.3時間

伝達事項の
オンライン共有
p.95

削減
時間
16.7時間

職員朝礼・終礼
のオンライン化
p.96

削減
時間
16.7時間

連絡掲示板の
設置 p.98

削減
時間
16.7時間

② 校内の会議

職員朝礼から終礼へ
の変更 p.98

削減
時間
10.8時間

定例会議を
必要に応じて
開催へ変更 p.100

削減
時間
10.8時間

少人数会議の
導入 p.101

削減
時間
7.2時間

③ 校内の会議

スタンドアップ
会議の実施 p.101

削減
時間
7.2時間

時間厳守の徹底
p.101

削減
時間
7.2時間

ペーパーレス化
p.102

削減
時間
3.6時間

会議室への
移動見直し p.102

削減
時間
0.9時間

④ 校内の会議

会議時刻の前倒し
p.104

削減
時間
10.8時間

協議論点の明確化
p.104

削減
時間
10.8時間

研修・研究

① 校内の研修・研究

研修・研究会の
精選 p.107

削減
時間
12.0時間

日常的な授業
見学・教材や情報
共有へ転換 p.107

削減
時間
2.0時間

個人のニーズに
合わせて選択制へ
転換 p.108

削減
時間
2.0時間

動画・紙面共有での実施
p.108

② 教育委員会の研修

オンライン
会議の活用 p.109

削減
時間
6.0時間

会計業務

① 現金基金の対応

修学旅行費用を
コンビニエンス
ストア払いに p.110

削減
時間
25.0時間

インターネット
バンキングを導入
p.110

削減
時間
37.5時間

学校徴収金システム
による口座振替を
導入 p.111

削減
時間
33.0時間

家庭での
直接購入へ転換
p.112

削減
時間
4.0時間

② 学年・学級会計の対応

保護者が業者へ
直接発注へ転換
p.112

削減
時間
4.0時間

学級費を学年
会計へ統一
p.114

削減
時間
5.4時間

教材発注プロセス
の見直し p.114

削減
時間
5.4時間

服務

① 正規職員の出勤と年休の管理・行政への報告

クラウド型の出勤
管理システムの
導入 p.116

削減
時間
10.8時間

管理簿の電子化
p.116

削減
時間
1.8時間

管理簿の
押印廃止 p.116

削減
時間
1.8時間

出張申請の
簡素化 p.116

削減
時間
1.8時間

取組リンクリスト⑤

取組内容をクリックして、各詳細ページに移動することができます。黄色の枠は令和3年度の取組として追加した内容です。

業務分担の見直し

① 教科担任

[専科・教科
担任制の導入](#)
p. 117

削減
時間
100時間

[小中間の
乗り入れ授業](#)
p. 117

削減
時間
100時間

② 学級担任

[全員・チーム
担任制の導入](#)
p. 122

削減
時間
66.7時間

[担任外の
教員の活用](#)
p. 122

削減
時間
50.0時間

③ 校務分掌

[校務分掌の
担当数精選](#)
p. 125

削減
時間
43.0時間

[主任業務の
分散](#) p. 126

削減
時間
43.0時間

[メンター制の導入](#) p. 126

[担任
持ち上がり制の見直し](#) p. 126

執務時間の創出

① 日課表の見直し

[朝活動・昼休み
清掃無しor短縮日
の設定](#) p. 128

削減
時間
66.7時間

[登下校時刻の
見直し](#) p. 128

削減
時間
66.7時間

[短縮授業の実施](#)
p. 129

削減
時間
43.0時間

[会議・研修が
無い日の設定](#)
p. 129

削減
時間
43.0時間

[会議・研修
日課の設定](#)
p. 129

削減
時間
32.3時間

[モジュールの
活用](#) p. 130

削減
時間
32.3時間

[一斉下校日の
設定](#) p. 130

削減
時間
21.5時間

[教員の休憩時間の工夫](#)
p. 131

② 電話受付時間の制限

[保護者に時間外は
電話をしないよう
依頼](#) p. 134

削減
時間
66.7時間

[留守番電話・
音声ガイダンス
の導入](#) p. 134

削減
時間
66.7時間

③ 指導要録の電子化

[指導要録の
電子化](#) p. 135

削減
時間
30.0時間

④ 執務環境の整備

[作業集中
スペースの確保](#)
p. 136

削減
時間
66.7時間

[レイアウトの
変更](#) p. 136

削減
時間
21.5時間

[備品の整理](#)
p. 138

削減
時間
21.5時間

[備品の追加](#)
p. 138

削減
時間
21.5時間

支援スタッフの確保・活用

教員業務支援員

[① 教員業務支援員に
ついて](#) p. 140

[② 教員業務支援員
活用の工夫](#) p. 141

[③ 教員業務支援員
インタビュー](#) p. 142

[④ 教員業務支援員
への業務依頼表](#) p. 143

支援スタッフ

[⑤ 大学・ハローワーク・シル
バー人材センターとの連携](#)
p. 144

[⑥ 教員志望者を含む
100人以上の学生が
学校のサポートを実施](#) p. 145

[⑦ 学習塾との連携・相
談員の配置・オンライン
教材での補習教室](#) p. 146

校務でのDX

出席連絡・健康観察フォームの作成

02 小学校 > 令和3年度 > 10保健室 > 健康観察フォーム

5東 健康観察表 (回答)

5西 健康観察表

5西 健康観察表 (回答)

4西 健康観察表

4東 健康観察表 (回答)

4東 健康観察表

4西 健康観察表 (回答)

4西 健康観察表

3東健康観察表

3西 健康観察表 (回答)

3西 健康観察表

スプレッドシートで各担任が確認が可能

本小学校出席連絡(回答)



編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集: 2日前 (金井直美さん)



共有

100% 123 デフォルト 10 B I A

		C	D	E	F	G	H
1470	2022/02/09 23:19:21		2022/02/10 1東		欠席	家事都合	
1484	2022/01/22 15:14:10		2022/02/14 4東		遅刻	通院	
1485	2022/02/10 7:18:25		2022/02/10 4東		その他	家事都合	オンライン授業参加
1486	2022/02/10 7:20:42		2022/02/10 4東		欠席	家事都合	オンラインが苦手なため
1490							
1491							

当番職員の朝の仕事* 15分削減

校務のDX化

「お便り配布用classroom」でペーパーレス化

≡ 5年東組お便り配布用

ストリーム 授業 メンバー 採点



Meet
リンクを生成

クラスへの連絡事項を入力

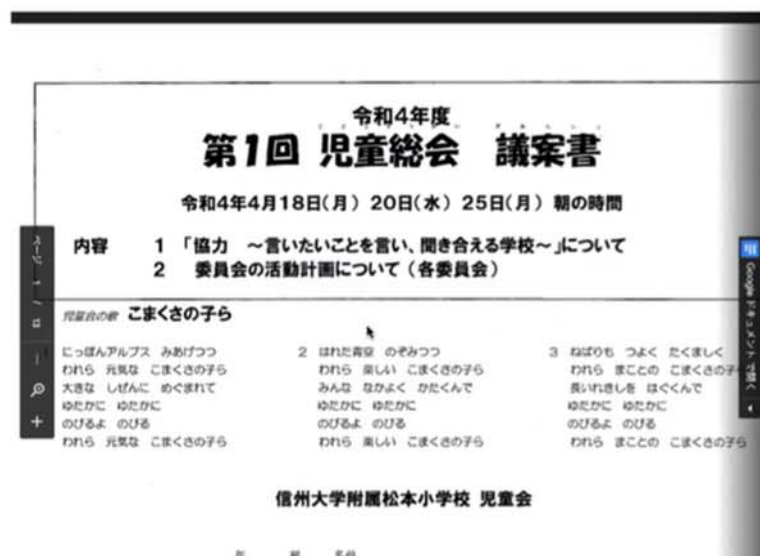
下郷 貴広 さんが新しい資料を投稿しました: 5月歴
教員

学校からの通知・学級だより

36枚×12クラス=432枚

学校生活でのDX

児童総会・全校集会をMeetで



PDF化してclassroomに配布

採決はformを使用

13袋×200人=2600枚の削減

教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）概要

令和3（2021）年3月
教育データの利活用に関する有識者会議

1. 教育データの定義

- ✓ 初等中等教育段階の学校教育における児童生徒（学習者）のデータが基本。
- ✓ ①児童生徒（学習面：スタディ・ログ、生活・健康面：ライフ・ログ）、②教師の指導・支援等（アシスト・ログ）③学校・学校設置者（運営・行政データ）。
- ✓ 定量的データ（テストの点数等）だけではなく、定性的データ（成果物、主体的に学習に取り組む態度、教師の見取り等）も対象。

2. 教育データの利活用の原則

- (1) 教育・学習は、技術に優先すること
- (2) 最新・汎用的な技術を活用すること
- (3) 簡便かつ効果的な仕組みを目指すこと
- (4) 安全・安心を確保すること
- (5) スモールスタート・逐次改善していくこと

3. 教育データの利活用の目的（将来像の具体的イメージ）

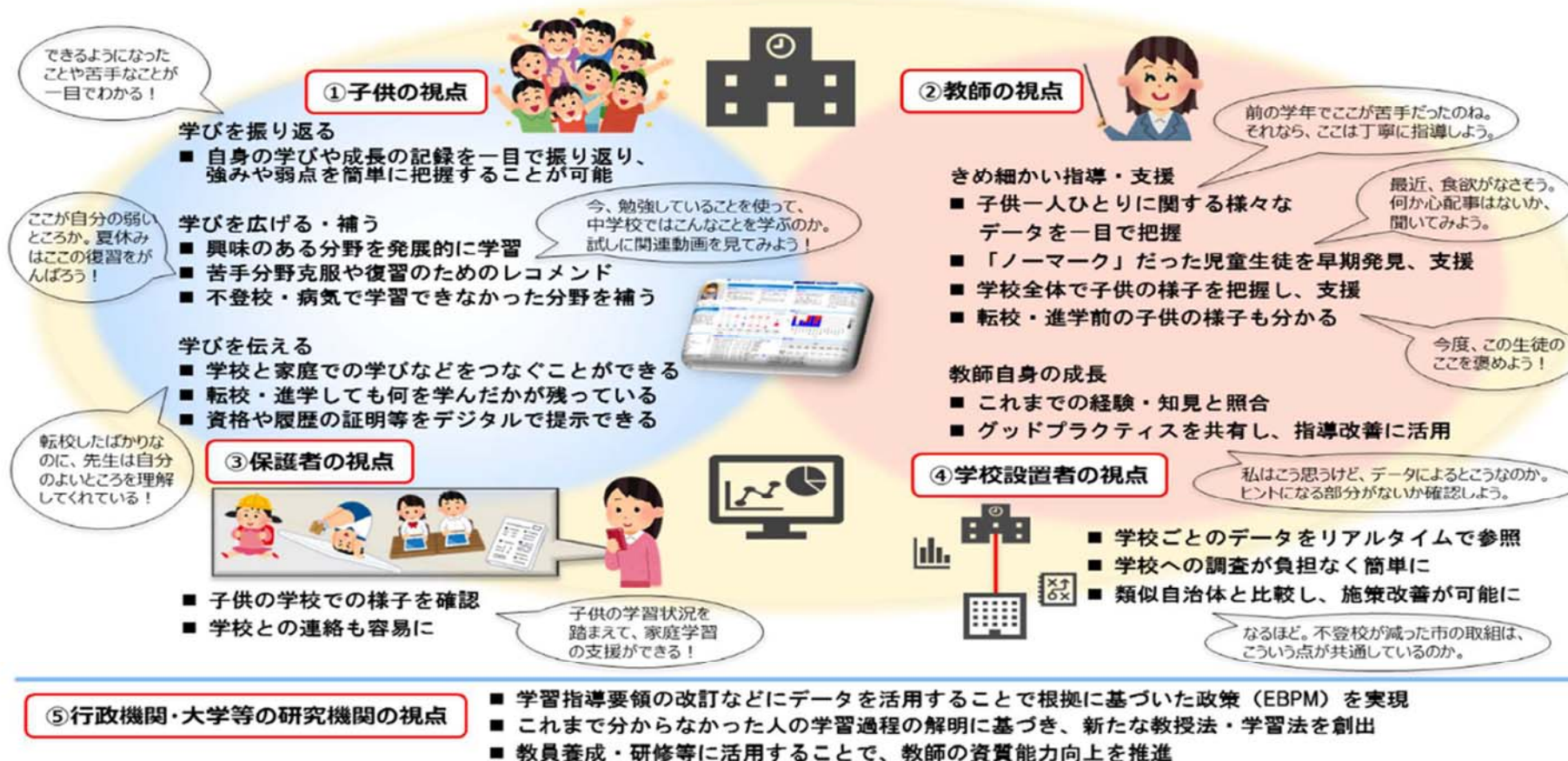


図 ヒートマップ表示から見た利用傾向(社会重点校)

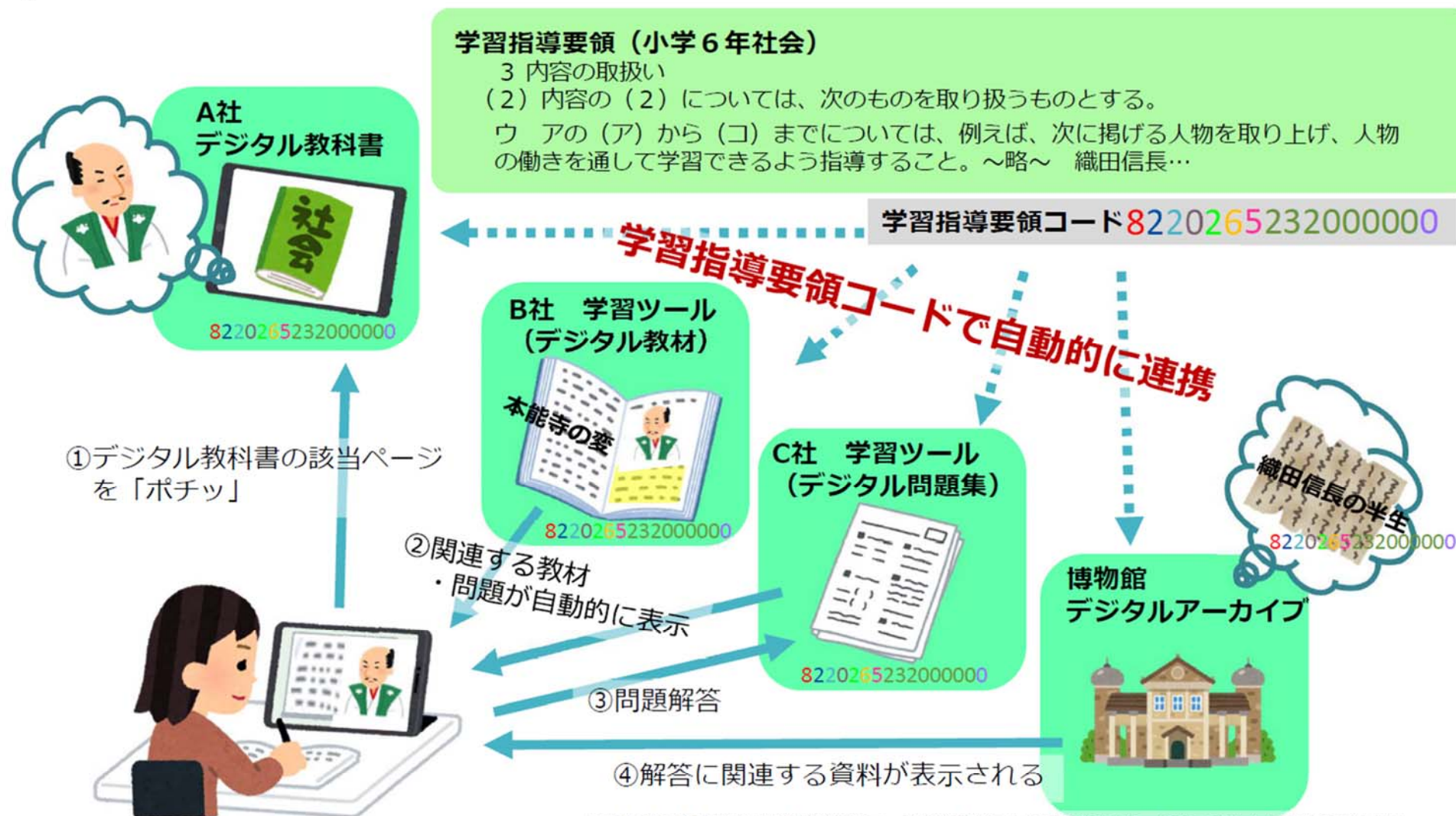


出典:株式会社
Lentrance
「Lentrance®
Analytics
(先行開発版)」

- ・4年生の社会科は地域学習が中心。副読本を使用する単元も多いため、必要な部分だけを選んで活用している
- ・ヒートマップ表示から、6年歴史編では本文にログが集中するのに対し、5年では本文よりも周辺の資料やコラムにログが集まる傾向がある

内容情報：学習指導要領コードの活用イメージ（教科書・教材等の連携）

- 学習指導要領をキーにして、各民間事業者のデジタル教科書・教材ツール・学習ツールや、博物館のデジタルアーカイブを関連付けすることができる。



※教材等の各事項には学習指導要領コードが複数付与される場合もあり、常に1対1となるものではない。
 (各事項ごとに学習指導要領コードをタグ付けして活用するイメージ)

ICTを利用した工夫



Kota たちがガイドブックを見て、行きたい場所を話しています。
それぞれが行きたい理由に当てはまるものに ✓ を付けましょう。

(1) Kota 

Rockefeller Center
ロックフェラーセンター

A  

B  

(2) Nick 

American Museum of Natural History
アメリカ自然史博物館

C  

D  

(3) Tina 

MoMA
ニューヨーク近代美術館

E  

F  

①自分のペースで聞ける

→ 個別最適な学び

②聞きたいものを聞ける

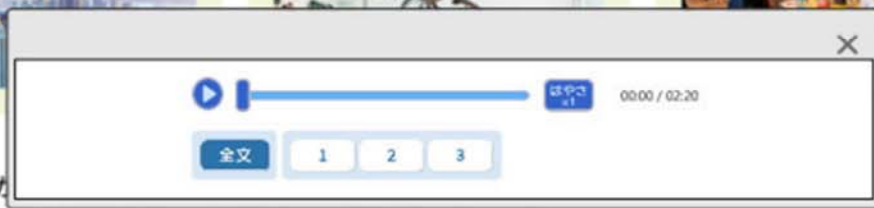
→ 主体的に取り組む学習

③友達と分担して聞ける

→ 協働的な学び



About You あなたが
また、そこには何がありますか。ページ 1 / 2



デジタル教科書を活用した家庭学習

～知識・技能の習得や定着を中心に～

Q. 地震が起きたとき、まずしなければならないことは何でしょうか。

Ms. Brown There will be an earthquake drill this afternoon.
So today, we will make an English pamphlet about earthquake safety actions.

Group discussion:

Eni First, you have to get down on the floor and then get under a desk.

Kotz When the shaking stops, you can leave the building.

Tina Do we have to take our bags?

Kotz No, you don't have to take them.

Hqin And if there is no desk?

Eni I don't know. I'll have to check.

New Words

- group [gru:p]
- discussion [dɪskʌʃən]
- down [daʊn]
- shake → shaking [ʃeɪkɪŋ]
- get down

I don't know.
「知らない」と答える

1 lead down
lead know
ow の発音に注意
have to [həv tu:]
発音に注意

ここをよむ ここからよむ はやさ かんかく

新出単語等の確認

- ・ 音声
- ・ 意味など

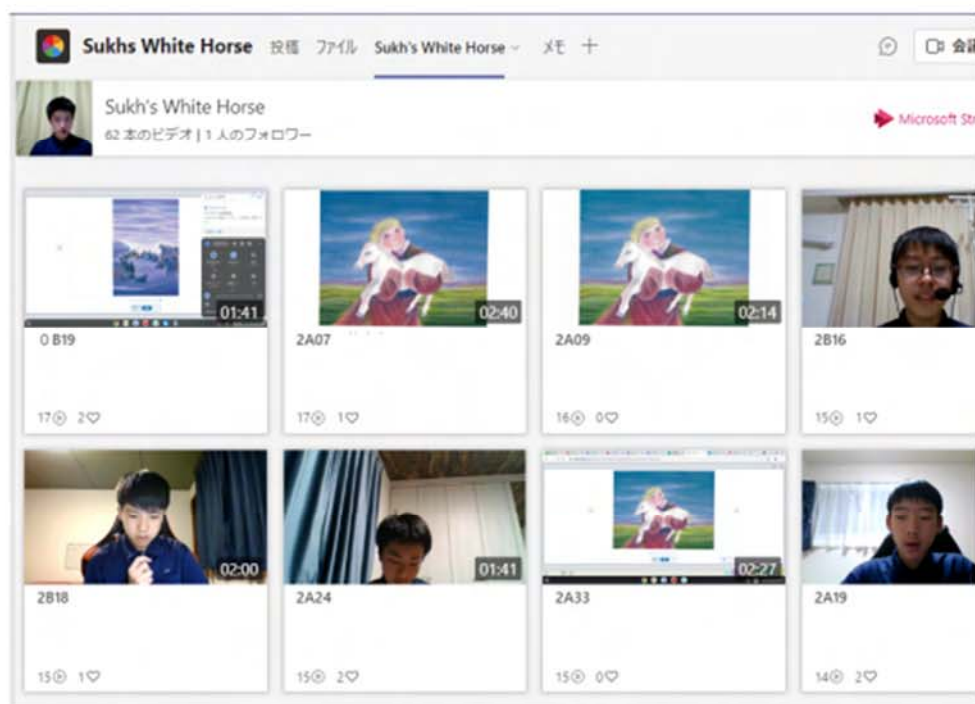
Shadowingで利用

- ・ 音声スピードの調整

立のつたがいに、コ

デジタル教科書を活用した家庭学習

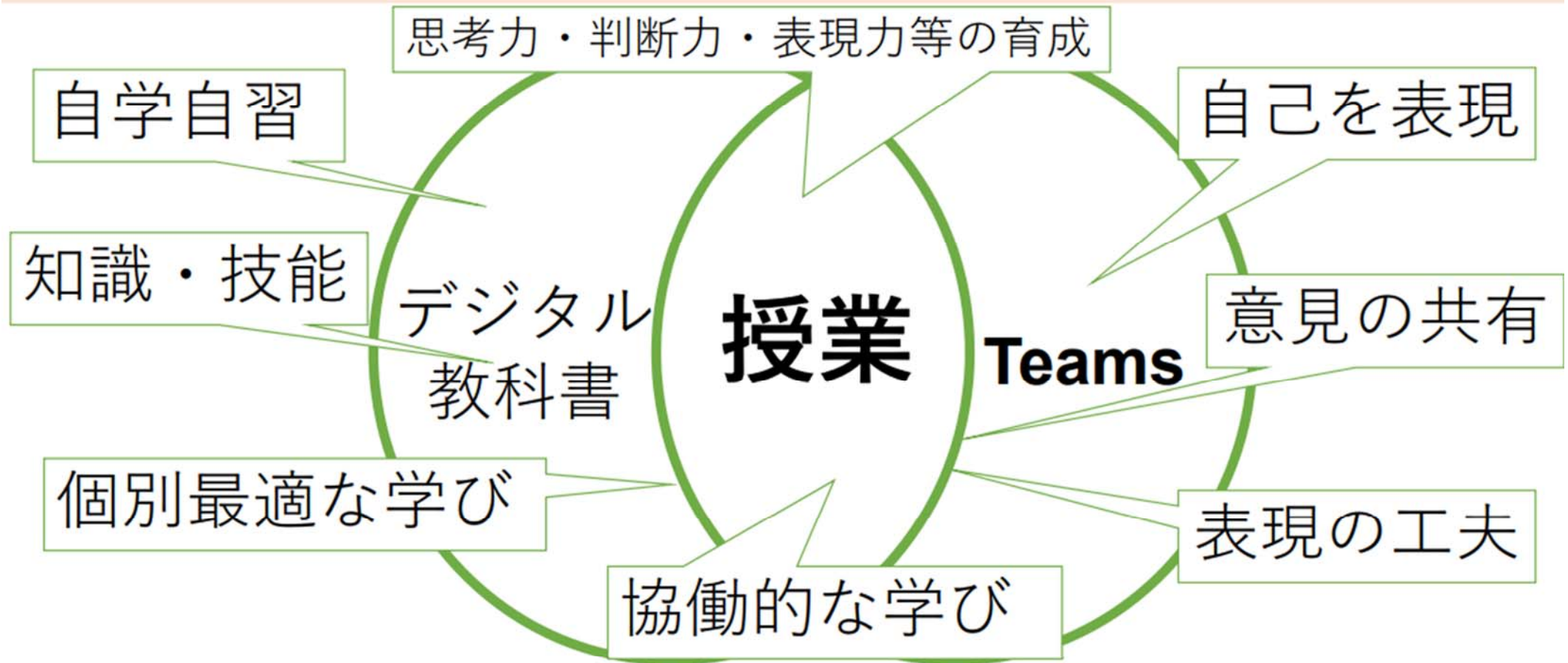
～思考・判断・表現力等の育成を中心に～



デジタル紙芝居

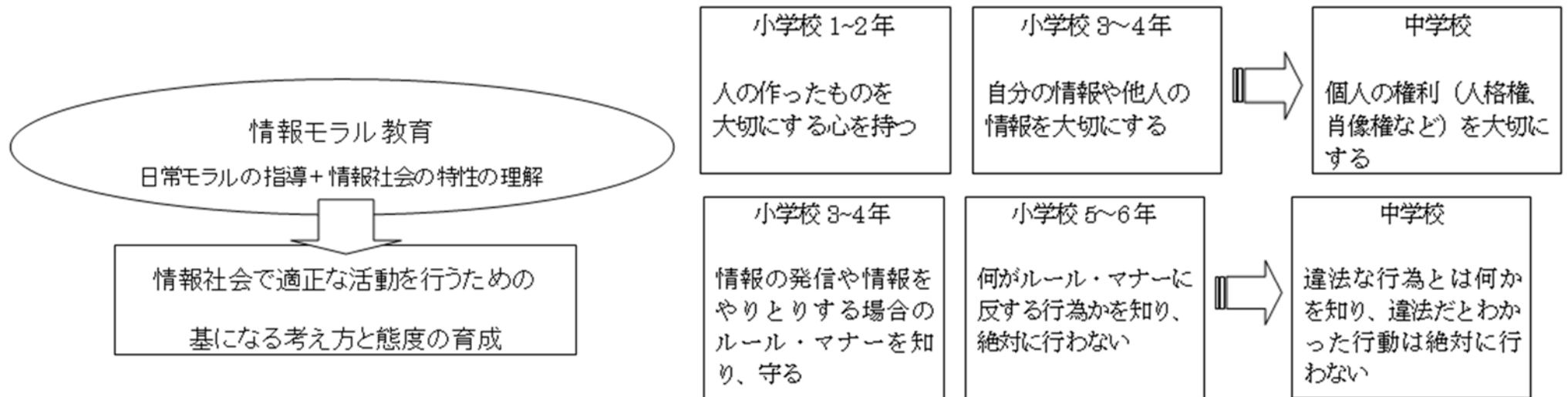
- ・イラストを効果的に活用
- ・感想を含めながらALTの先生に読み聞かせ
- ・Teamsを用いて読み聞かせを共有

授業の構成



情報モラルとは？

- 「情報社会を生きぬき、健全に発展させていく上で、すべての国民が身につけておくべき考え方や態度」
- 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解することなどの内容



引用：文部科学省(2008)「教育の情報化に関する手引き」

情報社会の倫理

★情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度。

小学校:人の作ったものを大切にし、他人や社会への影響を考えて行動することの大切さを学ぶ。

中学・高等学校:他者の権利や知的財産権を尊重し、情報社会への参画において責任ある態度で臨み義務を果たさなければならないことを学ぶ。

法の理解と遵守

★情報社会におけるルールやマナー、法律があることを理解し、それらを守ろうとする態度。

小学校:情報をやりとりする際のルールやマナーを理解し、それらを守る態度を学ぶ。

中学・高等学校:情報に関する法律や契約について理解し適切に行動する態度を学ぶ。

心を磨く領域

公共的なネットワーク社会の構築

★情報社会の一員として公共的な意識をもち、適切な判断や行動を取る態度。

小学校:協力してネットワークを使い、データやリソースを共有することの大切さを学ぶ。

中学・高等学校:ネットワークの公共性を意識し、ネットワークをよりよいものにするために主体的に行動する態度を学ぶ。

知恵を磨く領域

★情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度。

小学校:危険なものには近づかない、もし不適切な情報に出会ったら大人に相談するなど適切に対応できる態度を学ぶ。

中学・高等学校:情報社会の特質を意識しながら安全に行動する態度や、自他の安全や健康に配慮した情報メディアとのかかわり方を学ぶ。

安全への知恵

★生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識。

小学校:IDやパスワードの保護や不正使用・不正アクセスの防止などを学ぶ。

中学・高等学校:情報セキュリティの基本的な知識を身につけ、セキュリティ対策の立て方を学ぶ。

情報セキュリティ

デジタル・シティズンシップ教育とは？

- 現在の『情報モラル教育』は、個々の安全な利用を学ぶ
- 『デジタル・シティズンシップ教育』は人権と民主主義のための善き社会を創る市民となることを目指す
- 個人のモラル教育ではなく、パブリックなモラル教育
- 利用を躊躇させる情緒的抑制から、賢く使う合理的活用ができる人へ

禁止教育から子ども主体の教育へ

著作権指導を考える

- 無断使用はダメ, それは違法
- 作者に了解を得る(許諾を得る)」という手段が抜けがち
- 著作権法:第1条 著作権を保護する目的は文化の発展にある
- 著作権は創造性の教育の視点が重要

作者自身の意思表示を明示



クリエイティブ・コモンズ・ジャパン「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは」より引用
<https://creativecommons.jp/licenses/>

著作者自身がその著作物をどう扱って欲しいかの意思を示す

ROBOCON REPORT 2021 by Young Maker



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。

学校名	つくば市立大徳中学校		
(ふりがな)	それいけくまちゃん！		
チーム名	それいけくまちゃん！		
ロボコンルール (名称とURL)	名称： https://gijyutu.com/imgk/wp-content/uploads/2020/07/R2.オンラインロボコンルール version1.1.pdf	都道府県名	茨城県
製作期間	2020年7月頃から2020年10月頃まで	製作時間	100時間
ロボットに関する写真と図	必ず、ロボットの概要や機構等の特徴がわかる写真や図等を1~4枚で掲載する。 写真や図に記号等を書き込み、下の枠「ロボットのアイデア概要」で解説する。		
ロボットのアイデア概要【報告書要約】	<主な機構の仕組み> ・ラダーチェーンを利用した機構。(六速ギヤを使用している) ・反発性のあるPPを用いたアームの機構。(四速ギヤや、強力なすべり止めを使用している) ・後ろにはおもりとして乾電池をしようしている。		
参考資料	・先輩のラダーチェーン上下機構を参考にした。 ・先生方や友達のアドバイスを参考させてもらった ・オンラインでもアドバイスなどをいただいた		

授業の準備を
先にする

給食の動画中は
音を $\frac{1}{4}$ 以下

机の上を
きれいにしてから
移動

チャットやコメント
を投稿する時は
肯定的にする

水分補給や
給食のときは
chromebook
をしまう

外や体育後は
①手洗いうがい
②水分補給

Scratch
友だちのプログラム
↓
コメントを残す

Scratch
他の人のプログラム
↓
織田Tに許可をとる

人のchromebook
を使ったり、人のか
いたものをいじったり
しない。

背景はモザイク
ある画像に
する

集中の妨げ
になるページは
消す

chromebook

こうならないように気をつけよう！

学校生活でのDX

学級でルールづくり

4年時

子供と共にルール作成

5年時

ルールから目指す姿へ

子供の実態に合わせてアップデート

～Chromebookの達人になろう～

5東が目指す姿

使える



いろんな人のために タイピング
便利な機能を正しく 色々なアプリで
メリハリをもって ショートカットキー
使わなくていいときは使わない

守れる



時間を守って *自分で *すばやく
安全に *アプリ *著作権
*怪しいサイトは× 必要のないタブ
次の準備をしてから 4東の時のルール

教えられる



よくわかっていない人や低学年に
共有できる 何を聞かれても答えられる
得になる使い方 知っている方法を使える

【教員保護者向け】 GIGAスクール時代のテクノロジーとメディア～デジタル・シティズンシップから考える創造活動と学びの社会化



1コマ目を見る ▶



概要・レクチャー一覧

資料・動画

概要

※本コンテンツは、教員・保護者の皆様向けに「GIGAスクール時代のテクノロジーとメディア～デジタル・シティズンシップから考える創造活動と学びの社会化」教材シリーズについて、その背景や理念について解説するものです。